

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業  
成果報告書  
(令和4年度～令和6年度)

機 関 名 : 福島県西会津町教育委員会

# 1. 事業実施の目的

## <事業実施の目的>

西会津町においても少子高齢化が進んでおり、平成24年に5つの小学校が統合され西会津小学校1校となり、平成29年に3つの保育所が統合されこゆりこども園1園となった。

また、一人親家庭の増加等に伴う家庭の教育力低下は大きな課題であり、保小中並びに家庭・地域が連携して、園児・児童・生徒の健全育成に取り組む体制を強化してきた。

保小連携に関しては、次のような取組を実施してきた。

- ・夏季休業中に、こども園年長組が小学校に行き校舎内見学を行う。
- ・2学期に、こども園年長組が小学校に行き授業見学を行う。
- ・小学校の行事（運動会、秋祭り等）で、小学生とこども園年長組の交流を行う。
- ・小学校入学前に、新入学児童（こども園年長組）の体験入学を行う。
- ・こども園の保育士と小学校教員等による新入学児童についての情報交換を行う。
- ・こども園の保育士と小学校教員が相互参観を随時行う。
- ・小中学校の養護教諭と栄養教諭が、こども園で健康教室を行う。
- ・保小中連携協議会（教育長、学校教育課長、福祉介護課長、こども園長・副園長、小学校長、中学校長、幼児教育保育アドバイザー、学校教育アドバイザー）を年3回行う。
- ・幼児教育保育アドバイザーと学校教育アドバイザーが定期的に情報交換する。

しかし、より一層、子どもたちの発達段階に合わせた継続的な学びの支援が必要であるという認識があり、特に、幼児期から児童期への架け橋期における子どもたちの不安や戸惑いを軽減し、スムーズな接続を実現することが重要な課題である。また、幼児教育と小学校教育の現場で、教育内容や方法にギャップがあり、子供達が戸惑うケースも見られた。

そこで、本事業を通して次のことを目指した。

- ・幼児期から児童期への発達を見通し、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、こども園と小学校の関係者が連携を深める。
- ・保小の連携体制を強化し、子どもたちが安心して学び続けられる環境を整備する。
- ・地域資源を活用した教育プログラムを開発し、子どもたちの地域への愛着や学びへの意欲を高める。
- ・西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を小学校1年生の生活科に導入し、5歳児も参加して、協働的な学習の機会を設け、実践する。
- ・保育士と小学校教員が直接園児・児童を指導する中で連携を深め、地域の良さを生かした学習を工夫し、食育指導にもつなげる。
- ・架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連動するように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を図る。

これらの目的を達成するために、関係機関との連携を密にしながら、具体的なプログラムの開発や実践、評価・改善に取り組むこととした。

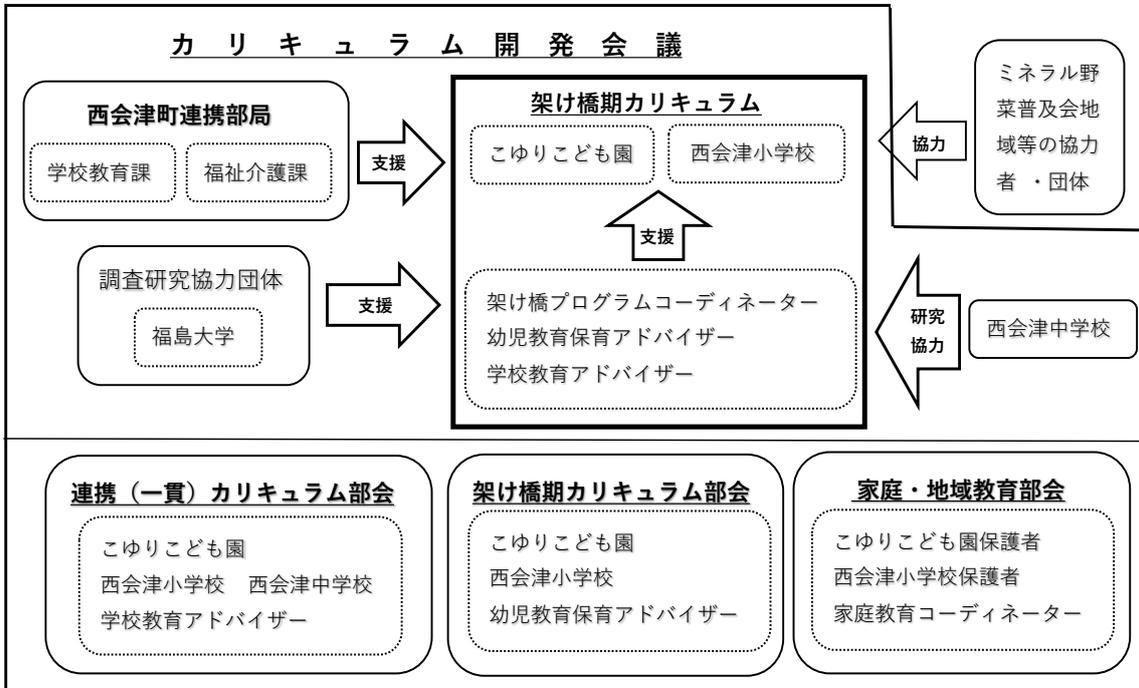
## <園・小学校の施設数等>

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数				1					1	
園児・児童数				116					192	

## 2. 事業実施に当たっての体制づくり

### 2-1. 組織図・体制図

#### <組織図・体制図>



#### 【架け橋期のカリキュラム開発会議】

##### ① 委員構成

- こども園園長 ○こども園副園長 ○保育士 ○小学校校長 ○小学校教務主任
- 小学校教員 ○中学校校長 ○こども園保護者 ○小学校保護者
- 学校教育アドバイザー ○幼児教育保育アドバイザー ○家庭教育コーディネーター
- 指導助言者：福島大学教授

##### ② 部会

- 連携(一貫)カリキュラム部会 保小中連携(一貫)教育カリキュラムについての検討等
- 架け橋期カリキュラム部会 アプローチ・スタートカリキュラムについての検討等
- 家庭・地域教育部会 家庭・地域の子供や園・学校との関わり方についての検討等

#### <体制づくりの進め方>

- 主担当部局と関係部局との連携
  - ・本事業の主担当は、西会津町教育委員会学校教育課である。
  - ・学校教育課を中心に、こゆりこども園を管轄する福祉介護課など、関連する複数の部局が連携して体制づくりを進めた。
  - ・具体的には、カリキュラム開発会議を中心に、情報共有や意見交換を行うとともに、各部局の専門性を活かした協力体制の構築を図った。
- 体制づくりの具体的な進め方
  - ・幼児教育と小学校教育の現状や課題を把握するために、こども園長や小学校長等への聞き取りを行った。
  - ・具体的なプログラムの内容や実施方法を検討し、関係機関との合意形成を図った。
  - ・西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を小学1年生の生活科に導入し、こども園と小学校

が連携し、地域人材の協力を得て、苗植え、手入れ、収穫などの実践的な活動を計画した。

○課題と対応策

- ・体制づくりを進めるにあたっては、関係機関の連携や情報共有の円滑化、各関係者の意識の統一に課題があった。
- ・特に、保育士と小学校教員の連携を深めるために、幼児教育保育アドバイザーが、こども園と小学校のスケジュール調整や活動への助言を行うようにした。
- ・また、保育士と小学校教員の合同研修会や相互訪問などを実施するとともに、週1回情報交換の時間を確保するなど、相互理解を促進した。

○地域との連携

- ・地域人材の協力を得て、ミネラル野菜栽培などの地域資源を活用した教育プログラムの実践を推進した。
- ・町のケーブルテレビで架け橋期プログラム事業の取組を紹介する番組を放映するなど、架け橋期を中心とした保小中連携の取組について、家庭や地域に周知を図り、地域全体で子供達の成長を支える体制づくりを進めた。

## 2-2. 協力園・協力校

### <協力園・協力校の概要>

設置者	施設類型等	園名・校名	幼児・児童数等	接続園・校のグループ
公立	保育所型	こゆりこども園	116名（5歳児：28名）	
公立	小学校	西会津小学校	192名（小1：25名）	

### <協力園・協力校の指定プロセス>

西会津町内には、こゆりこども園と西会津小学校の1園1校のみで、しかも隣接しており、連携に大変適しているため、協力園・協力校に指定した。



【こゆりこども園】



【西会津小学校】

## 2-3. 協力団体等

### <協力団体等の概要>

団体等名	団体等の活動概要
福島大学 人間発達文化学類 心理学・幼児教育コース	心理学・幼児教育コースは、人の行動・心理についての知識を得るとともに、実験・調査・観察など科学的手法によって研究を行う心理学の分野と、乳幼児の発達を学びつつ、幼児期に相応しい経験とは何かを探る教育の分野がある。
福島県教育庁義務教育課 ふくしま幼児教育研修センター	令和5年度に設立され、幼児教育の質の向上や人材育成等を目的とした研修を支援するセンターである。市町村や団体等が主催する研修会について、保育者の資質向上や幼児教育の充実に向けて行う研修の指導助言を行う。
町ミネラル野菜普及会	6月にこども園の年長児と小学1年生による、協働的な学習の場であるサツマイモの苗植えなどにおいて、植え方のポイントや講話を行う。

### <各協力団体等との連携>

#### ○福島大学

西会津町では福島大学とこれまで、ボランティア活動に係る助言・指導、奥川地区を中心とした集落支援などで連携を図ってきたことから、協力をお願いした。

令和4年12月には、町と福島大学とで「包括連携に関する協定」を締結し、締結式の際には、三浦学長から「保育所から小学校の架け橋期のカリキュラム開発をはじめ、より踏み込んだ内容で連携し、地域課題の解決や地域経済の活性化にこれまで以上に協力していきたい」とのあいさつがあった。

#### ○ふくしま幼児教育研修センター

令和5年10月12日に保育士・教員合同研修会を実施した際、講師として同センター米屋真由美指導主事の派遣を依頼し、「乳幼児の学びをその先へ」と題して講演していただいた。

#### ○町ミネラル野菜普及会

西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を柱にした学習プログラムということで、取組に賛同いただき、毎年、こども園の年長児と小学1年生による、協働的な学習の場であるサツマイモの苗植えなどにおいて、講話や技術指導で協力していただいている。

#### ○課題と対応策

- ・協力団体との連携を進めるにあたっては、各団体の活動スケジュールや専門性の違いから、連携が難しい場面もある。
- ・これらの課題に対応するため、学校教育アドバイザーや幼児教育保育アドバイザー等で定期的な打合せを行い、情報共有や意見交換のもとに調整を図った。

## 2-4. 架け橋期のコーディネーター等

### <架け橋期のコーディネーター等の概要>

新規／継続	事業に関わった年度	役職名	経歴
(例) 新規	令和4～6年度	架け橋期のコーディネーター	元公立小学校長、幼稚園での勤務経験あり
継続	令和4～6年度	幼児教育保育アドバイザー	元公立小学校長、こゆりこども園で勤務している
新規	令和5年度	架け橋プログラムコーディネーター	元こゆりこども園副園長

### <架け橋期のコーディネーター等の役割等>

#### コーディネーター等の選任プロセス

##### ○選任の観点

- ・ 幼児教育と小学校教育の両方の専門知識や経験を有する人材
- ・ 地域の子どもの状況や課題に精通している人材
- ・ 関係機関との連携や調整能力が高い人材
- ・ カリキュラム開発や研修企画に関する経験や知識を有する人材

##### ○選任プロセス

- ・ 西会津町教育委員会が中心となり、関係機関の推薦などをもとに候補者を選定した。

#### コーディネーター等に期待した役割

- 幼保小の連携強化
- 架け橋期のカリキュラム開発の推進
- 研修等の企画・運営
- 地域資源を活用した教育活動の支援
- 保護者や地域住民への情報提供や啓発活動

#### コーディネーター等が実際に担った業務と成果

##### ○連携調整

- ・ 幼保小の教職員や関係機関との連絡調整を行い、円滑な連携体制を構築した。
- ・ 定期的な会議や研修会等を企画・運営し、情報共有や意見交換を促進した。

##### ○カリキュラム開発支援

- ・ 架け橋期のカリキュラム開発会議の運営を支援し、カリキュラム作成に関するアドバイスや情報提供を行った。

##### ○研修企画・運営

- ・ 研修会等を企画・運営し、専門性の向上や相互理解の促進に貢献した。
- ・ 研修内容の企画や講師選定、資料作成など、研修運営全般を担当した。

##### ○地域連携支援

- ・ 地域資源を活用した教育活動の企画・運営を支援し、関係団体等との連携を促進した。

##### ○情報発信

- ・ 保小の連携活動やカリキュラムに関する情報を、町ホームページやケーブルテレビ、架け橋だよりなどを通して発信した。

#### 課題と対応策

##### ○課題

- ・ こども園と小学校、関係機関との連携においては、それぞれの都合やスケジュールを調整する必要があり、連携を円滑に進めることが難しい場面もあった。

##### ○対応策

- ・ こども園と小学校、関係機関との連絡を密にし、情報共有や意見交換を頻繁に行い、連携を強化した。

### 3. 架け橋期のカリキュラム開発会議

#### 3-1. 会議委員等

##### <会議委員一覧>

会議の代表者氏名		菅家由紀子 (R4~R5) 齋藤 勝芳 (R6)	他27名 (実人数)
会議委員氏名	所属機関 所属・職名	具体的な役割分担	従事期間
原野 明子	福島大学人間発達文化学類 心理学・幼児教育コース教授	指導助言	令和4年6月～7年3月
船橋 政広	こゆりこども園 園長 (福祉介護課主幹、課長)	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和4年6月～7年3月
菅家由紀子	西会津小学校 校長	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和4年6月～6年3月
齋藤 勝芳	西会津小学校 校長	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和6年4月～7年3月
佐藤 崇史	西会津中学校 校長	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和4年6月～5年3月
園部 毅	西会津中学校 校長	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和5年4月～7年3月
五十嵐正彦	学校教育課 学校教育アドバイザー	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和4年6月～5年3月
押部 秀隆	学校教育課 学校教育アドバイザー	保小中教育部会 連携(一貫)カリキュラムG	令和5年6月～6年7月
伊藤 博子	こゆりこども園 幼児教育保育アドバイザー	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和4年6月～7年3月
五十嵐育代	こゆりこども園 副園長	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和4年6月～6年3月
須藤 博子	こゆりこども園 副園長	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和6年4月～7年3月
三留 望	こゆりこども園 年長組担任	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和4年6月～5年3月
塚原 由紀	こゆりこども園 年長組担任	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和5年4月～7年3月
佐藤美智枝	西会津小学校 教務主任	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和4年6月～7年3月
鈴木 敦子	西会津小学校 1学年担任	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和4年6月～5年3月
小島 律子	西会津小学校 1学年担任	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和5年4月～7年3月
竹内 孝幸	西会津中学校 教務主任	保小中教育部会 架け橋期カリキュラムG	令和6年4月～7年3月
荒海 正人	こゆりこども園 保護者代表	家庭・地域教育部会	令和4年6月～7年3月
大沼あゆみ	西会津小学校 保護者代表	家庭・地域教育部会	令和4年6月～7年3月

紫藤真理子	西会津町地域学校協働本部 家庭教育コーディネーター	家庭・地域教育部会	令和4年6月～5年10月
星 佳子	西会津町地域学校協働本部 家庭教育支援員	家庭・地域教育部会	令和4年6月～6年3月
高橋 美奈	西会津町地域学校協働本部 家庭教育コーディネーター	家庭・地域教育部会	令和6年4月～7年3月
佐藤 実	学校教育課 課長	事務局	令和4年6月～7年3月
渡部 栄二	福祉介護課 課長	事務局	令和4年6月～5年3月
三留 昭生	福祉介護課 課長補佐子育て支援センター所長	事務局	令和5年4月～7年3月
小柴 郁子	福祉介護課 子育て支援係長	事務局	令和4年6月～7年3月
小林 和洋	学校教育課 学校支援係長	事務局	令和4年6月～6年3月
薄 清久	学校教育課 課長補佐兼給食センター長・学校支援係長	事務局	令和6年4月～7年3月
星 菜保子	学校教育課 架け橋プログラムコーディネーター	事務局	令和5年4月～6年3月

### <会議委員の決定プロセス>

架け橋期のカリキュラム開発会議委員を決定するにあたり、以下の観点を重視し、関係機関からの推薦などを通して、委員を選定した。

#### ○専門性

- ・ 幼児教育と小学校教育の両方の専門知識や経験を有する人材
- ・ 地域の子供達の状況や課題に精通している人材
- ・ カリキュラム開発に関する専門的な知識や経験を有する人材

#### ○代表性

- ・ こども園、小学校、保護者、地域住民など、多様な関係者の代表
- ・ 各関係者の意見を反映できる人材

#### ○意欲

- ・ 架け橋期の教育の質の向上に意欲的に取り組む人材
- ・ 関係機関との連携を積極的に推進できる人材

#### 会議の設置プロセス

- ・ 架け橋期のカリキュラム開発会議は、保小中連携協議会を活用して設置した。
- ・ 会議の設置にあたっては、まず、会議の目的や役割、構成員、運営方法などを定めた設置要綱を策定した。
- ・ 次に、設置要綱に基づき、関係機関との協議や調整を行い、会議の構成員を決定した。
- ・ 会議の設置後も、必要に応じて構成員の見直しや追加を行い、より効果的な会議運営を目指した。

### 3-2. 開催実績

#### <開催実績>

##### 令和4年度

開催日時	議事次第	主な検討内容・決定事項
6月27日15時～ 16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 架け橋プログラムに関する調査研究事業について</li> <li>・ 部会ごとの協議</li> <li>・ 講話 福島大学 原野明子教授</li> </ul>	<p>会長に小学校長、副会長にこゆりこども園長が選定された。カリキュラム案を各部会に分かれて協議する。最終的にはリーフレットを作成して、家庭・地域に周知及び共通理解を図ることを決定した。</p>
9月22日15時～ 16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保小中連携（一貫）教育カリキュラム案の説明</li> <li>・ 部会ごとの協議、共有</li> </ul> 	<p>各部会で協議した素案をもとに、カリキュラム案を作成した。テーマを【保小中&amp;家庭・地域が力を合わせて育てよう「挑む心とやり抜く力で、未来を創る西会津っ子」】とした。各部会からの意見を参考に修正して保育士・教員合同研修会で再検討することを決定した。</p>
2月15日15時～ 16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度事業結果報告案について</li> <li>・ カリキュラム案について</li> </ul>	<p>カリキュラム案を作成することで、こども園から小中学校までのビジョンが見えてきた。西会津町の特色を活かした、ミネラル野菜を軸としたカリキュラム概要版が完成した。</p>

##### 令和5年度

開催日時	議事次第	主な検討内容・決定事項
5月30日15時～ 16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度事業計画について</li> <li>・ 育ってほしい姿・目指す姿の達成度について</li> </ul> 	<p>昨年度はコロナ禍の影響で体験・交流活動があまりできなかった。今年度はカリキュラムの年間計画に沿って、ミネラル野菜栽培をして保育士と小学校教員との連携を深めることを確認した。</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）のアンケート調査を実施した。同じアンケートを2月も実施して変化を分析することを決定した。</p> <p>小学校教員と保育士の情報交換のために水曜日に1時間の時間を確保したことを確認した。</p>

		今年度は、架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連携できるように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を図ることを確認した。
10月12日15時～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度のこども園と小学校の交流について</li> <li>アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて</li> </ul>	<p>1学期は予定通りに交流活動ができた。また、2学期以降の交流活動の計画を確認した。</p> <p>カリキュラムは、「架け橋期」における繋ぎをスムーズにするために、こども園の8月から小学校の7月までを1枚にまとめることを決定した。</p>
2月20日15時～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度事業結果報告書案について</li> <li>アプローチ・スタートカリキュラム案について</li> </ul> 	<p>部会ごとに、令和5年度の成果と課題を協議した。</p> <p>育てたい力を「知識及び技能（の基礎）」「思考力、判断力、表現力等（の基礎）」「学びに向かう力、人間性等」とした。また、カリキュラムの時期を2～4ヶ月に区切り、それぞれの目標を設定した。さらに、10の姿の表記は縦書きにすることに決定した。</p>

令和6年度		
開催日時	議事次第	主な検討内容・決定事項
5月15日15時～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度事業計画について</li> <li>育てほしい姿・目指す姿の達成度について</li> </ul>	<p>最終年度であり、アプローチ・スタートカリキュラムをまとめたリーフレットを作成し配布することを確認した。</p> <p>前年度のアンケートの結果より子供達の変容を捉え、課題と改善策について協議した。</p>
9月17日15時～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半期取組の反省と下半期取組について</li> <li>リーフレット案について</li> </ul>	<p>カリキュラムをまとめたリーフレット案について協議し、「かけはしプログラム」として作成することを決定した。</p>
3月24日10時～11時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度事業結果報告書案について</li> <li>育てほしい姿・目指す姿の達成度について</li> <li>リーフレット「かけはしプログラム」について</li> </ul>	<p>今年度実施したアンケート結果より子供達の変容を捉え、成果と課題を協議した。</p> <p>完成したリーフレット「かけはしプログラム」の内容等を確認した。</p>

### 3-3. 成果と課題

#### <架け橋期のカリキュラムに関する議論>

架け橋期のカリキュラム開発会議では、以下の点について重点的に議論された。

- 幼児期から児童期への接続
  - ・幼児期の遊びを中心とした学びと、小学校の教科を中心とした学びを、どのように滑らかに接続するか。
  - ・子どもたちの発達段階や特性を踏まえ、どのような学びの連続性を確保するか。
- 地域資源の活用
  - ・西会津町の豊かな自然や文化、産業などの地域資源を、どのように教育活動に活用するか。
  - ・地域住民や関係団体との連携をどのように強化し、地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築するか。
- 子どもの主体性
  - ・子どもたちが主体的に学び、探求する力をどのように育むか。
  - ・子どもたちの興味や関心に基づいた学びをどのように展開するか。
- 具体的な連携内容
  - ・西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を小学校1年生の生活科に導入し、5歳児も参加して、協働的な学習の機会を設け、実践する。
  - ・保育士と小学校教員が直接園児・児童を指導する中で連携を深め、地域の良さを生かした学習を工夫し、食育指導にもつなげていく。
  - ・架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連動するように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を図る。

これらの議論の結果、以下のカリキュラム方針が決定された。

- 保小中連携（一貫）教育カリキュラムの策定
  - ・0歳から15歳までの学びの連続性を重視した、西会津町独自のカリキュラムを策定する。
  - ・西会津町の特産であるミネラル野菜との関わりを保小中の共通の柱としたカリキュラムを策定する。
- アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実
  - ・こども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに接続できるよう、それぞれの時期のカリキュラムを充実させる。
  - ・両カリキュラムを連動させ、学びの連続性を確保する。
- 連携と協力体制の強化
  - ・こども園、小学校、地域住民、関係団体などが連携し、協力してカリキュラムを推進する。
  - ・定期的な研修会や情報交換会などを開催し、関係者の連携を深める。
- アンケートの作成・実施と結果分析
  - ・5歳児担任・保護者と小学1年生担任・保護者を対象に、共通項目でのアンケートを実施し、特に架け橋期におけるカリキュラムの実施状況や保育士・教員・保護者の意識等について分析し、次年度の取組の改善に役立てる。

#### <会議設置による成果と課題>

##### 会議設置による成果

- 関係者の連携強化
  - ・会議を通して、こども園、小・中学校、保護者など、多様な関係者が連携し、協力してカリキュラム開発に取り組むことができた。
  - ・情報交換や意見交換を通して、関係者の相互理解が深まり、連携体制が強化された。
- 地域資源の活用

- ・会議での議論を通して、西会津町の豊かな自然や文化、産業などの地域資源を教育活動に活用するアイデアが生まれた。
- ・地域住民や関係団体との連携を通して、地域ならではの教育プログラムが開発された。

○カリキュラムの質の向上

- ・専門的な知識や経験を有する委員（大学教授等）の指導助言を参考にして、議論を重ねることで、より質の高いカリキュラムが開発された。
- ・幼児期から児童期への学びの連続性を重視したカリキュラムが策定された。

○具体的な連携内容の推進

- ・ミネラル野菜栽培を通じた、こども園、小学校、地域の連携が具体的に進み、食育活動にもつながった。
- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を図り、架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連動するように、具体的な内容を協議できた。

会議運営や協議内容等について直面した課題及び課題への対応策

○関係者のスケジュール調整

- ・多様な関係者が参加するため、会議日程の調整が難しい場合があった。
- ・課題への対応策として、会議日程の早期確定や、オンライン会議の活用などを検討した。

○専門用語の使用

- ・専門性の高い議論になるため、専門用語の使用により、関係者間で理解に差が生じる場合があった。
- ・課題への対応策として、専門用語の解説や、議論内容の平易な表現への言い換えなどを心がけた。

○意見の集約

- ・多様な意見が出るため、意見の集約に時間がかかる場合があった。
- ・課題への対応策として、事前に議題を共有し、意見を整理しておくことや、各部会での協議をもとに全体でまとめていくように進めた。

○継続的な活動

- ・カリキュラムは作成して終わりではなく、継続的な見直しと改善が必要である。
- ・課題への対応策として、今後は保小中連携推進協議会（仮称）として、定期的に会議を開催し、カリキュラムの実施状況や課題について情報共有や意見交換を行い、継続的なカリキュラムの発展を目指す。

## 4. 架け橋期のカリキュラム

### 4-1. 開発プロセス

#### カリキュラム開発の主体とプロセス

##### ○主体

- ・架け橋期のカリキュラム開発は、西会津町教育委員会が中心となり、協力園・協力校（町内のこども園と小学校）が主体となって進められた。

##### ○開発プロセス

- ・架け橋期のカリキュラム開発会議で決定した方針に基づき、各協力園・協力校がそれぞれの実情を踏まえ、具体的なカリキュラムを作成した。
- ・カリキュラム作成にあたっては、定期的な会議や研修会を開催し、情報共有や意見交換を行うとともに、必要に応じて専門家の助言を受けた。
- ・西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を小学校1年生の生活科に導入するにあたり、こども園、小学校、地域が連携し、地域人材の協力を得て、苗植え、手入れ、収穫などの実践的な活動を計画した。
- ・保育士と小学校教員が直接園児・児童を指導する中で連携を深め、地域の良さを生かした学習を工夫し、食育指導にもつなげた。
- ・架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連動するように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を図った。

##### ○課題と対応策

- ・カリキュラム開発にあたっては、各協力園・協力校の進捗状況に差が生じる場合があった。
- ・この課題に対応するため、幼児教育保育アドバイザーが中心となり、定期的な進捗状況の共有や調整を行った。

#### 幼保小の教育をつなぐ共通の視点

##### ○学びの連続性

- ・幼児期の遊びを中心とした学びと、小学校の教科を中心とした学びを、滑らかに接続することを重視した。
- ・子供達の発達段階や特性を踏まえ、学びの連続性を確保することを心がけた。

##### ○地域との連携

- ・西会津町の豊かな自然や文化、産業などの地域資源を、教育活動に積極的に活用することを重視した。
- ・町のケーブルテレビ等を活用して架け橋プログラムについての周知を図り、地域全体で子供達の成長を支える体制を構築できるように心がけた。

#### 幼保小の先生方の相互理解

##### ○相互理解の深化

- ・合同研修会や相互保育・授業参観などを通して、保育士と小学校教員の連携を深め、教育内容や方法の相互理解を促進した。
- ・合同での教育プログラムの企画・実施を通して、子どもたちの学びの連続性を確保した。
- ・ミネラル野菜栽培などの合同での実践を通して、より相互理解が深まった。

##### ○相互理解のポイント・課題と対応策

- ・幼児教育と小学校教育では、教育内容や指導方法に違いがあるため、相互理解に時間がかかる場合があった。
- ・この課題に対応するため、定期的な情報交換や意見交換を行うとともに、互いの専門性を尊重し、学び合う姿勢を大切にした。

## 4-2. 架け橋期のカリキュラムの概要

### 開発した架け橋期のカリキュラムの工夫した点・ポイント

#### ○地域資源の活用

- ・西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を軸に、子供達が地域への愛着を育み、学びへの意欲を高めるようなプログラムを開発した。
- ・地域の関係機関と連携し、地域全体で子供達の成長を支える体制の構築を図った。

#### ○幼保小の連携強化

- ・こども園と小学校の教職員が共同でカリキュラムを開発し、合同研修や相互保育・授業参観などを通して、相互理解を深めた。
- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを連動させ、学びの連続性を重視したカリキュラムを開発した。

#### ○子どもの主体性

- ・子どもたちの興味や関心に基づいた活動を取り入れ、子供達が主体的に学び、探求する力を育むことを重視した。
- ・体験的な活動やグループワークなどを通して、子どもたちの思考力や表現力を伸ばすことを目指した。

#### ○食育の推進

- ・ミネラル野菜栽培を通して、野菜の生長や収穫の喜びを体験し、食への関心を高める。

### 既存のカリキュラムとの相違点

#### ○地域との連携の強化

- ・既存のカリキュラムでは、地域との連携が十分に図られていない部分があったが、架け橋期のカリキュラムでは、地域資源の活用や地域住民との連携を重視した。

#### ○幼保小の接続の強化

- ・既存のカリキュラムでは、幼児教育と小学校教育の接続が十分に図られていない部分があったが、架け橋期のカリキュラムでは、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを連動させ、学びの連続性を重視した。

#### ○体験的な活動の重視

- ・既存のカリキュラムでは、教科を中心とした知識習得が重視される傾向があったが、架け橋期のカリキュラムでは、体験的な活動を通して、子どもたちの思考力や表現力を伸ばすことを重視した。

#### ○食育活動の推進

- ・地域特産のミネラル野菜栽培を通して、食育活動をカリキュラムに導入し、より食への関心を高められるようにした。

### 変わった理由

- 子どもたちの学びの連続性を確保し、地域全体で子どもたちの成長を支えることを目指し、架け橋期のカリキュラム開発に取り組んだ。
- 地域資源を活用し、子どもたちの地域への愛着や学びへの意欲を高めること、また、幼児教育と小学校教育の連携を強化し、子どもたちが安心して学び続けられる環境を整備することを目的とした。



## 4-3. 架け橋期のカリキュラムの実践

### 実践例



【5月さつまいも苗植え】



【10月さつまいも収穫】



【10月さつまいもパーティー】



【2月小学校体験入学】



【年4回園から小学校へお便り届け】



【こども園の展示】

### 実践状況と課題

#### ○実践状況

- ・開発された架け橋期のカリキュラムは、各協力園・協力校において、実際の教育活動に組み込まれた。
- ・特に、ミネラル野菜栽培を通じた活動は、子供達の興味関心を引き出し、主体的な学びを促す上で、大きな効果を発揮した。
- ・こども園と小学校の教職員が連携し、共同で授業や活動を行うことで、子どもたちのスムーズな移行を支援した。

#### ○見つかった課題

- ・カリキュラムの実施にあたり、各園・校の状況や環境の違いから、進捗状況に差が生じる場合があった。
- ・特に、教職員の多忙さから、十分な準備時間や連携時間を確保することが難しいという課題が見られた。
- ・また、一部の活動においては、子どもたちの発達段階や興味関心に合わない部分があるという意見も出た。

### 課題を踏まえた改善

#### ○情報共有と連携の強化

- ・定期的な会議や打合せ、研修会等を開催し、各園・校の進捗状況や課題を共有し、連携を強化した。
- ・こども園と小学校両方の状況を理解している幼児教育保育アドバイザーが、調整や助言にあたった。

#### ○カリキュラムの見直しと改善

- ・架け橋プログラムコーディネーターを配置し、子供達の発達段階や興味関心に合わせた活動内容に見直し、教材や指導方法の改善を行った。
- ・各園・校の状況や環境に合わせて、カリキュラムの実施方法を柔軟に調整した。

○教職員への支援

- ・外部講師を招いた研修会を開催し、専門的な知識や技術を学ぶ機会を設け、教職員の専門性向上を図った。
- ・カリキュラム実施のための、時間の確保などの、環境整備の検討を行った。

PDCA サイクルの具体例

○Plan (計画)

- ・ミネラル野菜栽培を通じた活動を計画し、具体的な活動内容や目標を設定した。

○Do (実行)

- ・こども園と小学校で、計画に基づいた活動を実施した。

○Check (評価)

- ・活動の実施状況や子どもたちの反応を観察し、活動の成果や課題を評価した。

○Action (改善)

- ・評価結果を踏まえ、活動内容や指導方法の改善を行った。



【ミネラル野菜栽培 サツマイモの苗植え】

## 5. 自治体の支援

### 5-1. 研修の実施

<実施した研修の概要>

令和4年度				
実施日	研修名	実施形式	対象者	研修内容
10月12日	保育士・教育合同研修会	対面	保育士 小学校教員 カリキュラム 開発会議委員	「幼児期の発達から小学校での架け橋期の教育を考える」と題した、福島大学人間発達文化学類教授 原野明子氏による講演
令和5年度				
実施日	研修名	実施形式	対象者	研修内容
10月12日	保育士・教育合同研修会	対面	保育士 小学校教員 カリキュラム 開発会議委員	「乳幼児期の学びをその先へ」と題した、ふくしま幼児教育研修センター指導主事 米屋真由美氏による講演
11月10日	先進地視察研修	対面	保育士 小学校教員 アドバイザー	福島大学附属幼稚園を視察
令和6年度				
実施日	研修名	実施形式	対象者	研修内容
8月8日	先進地視察研修	対面	保育士 小学校教員 アドバイザー	福島学院大学認定こども園を視察
9月17日	保育士・教育合同研修会	対面	保育士 小学校教員 カリキュラム 開発会議委員	「子どもと出会い直し、互いを理解する架け橋プログラムの取組」と題した、福島大学人間発達文化学類教授 宗形潤子氏による講演



【福島大学教授による講演】

## <研修の成果と課題>

### 研修の成果

#### ○幼保小の連携強化

- ・合同研修会や相互保育・授業参観などを通して、保育士と小学校教員の連携が深まり、教育内容や方法の相互理解が促進された。
- ・研修を通して、保小の教職員が共通の目標に向かって協力し合う意識が高まった。

#### ○専門性の向上

- ・研修を通して、教職員が幼児教育と小学校教育に関する専門的な知識や技能を習得し、指導力の向上につながった。
- ・特に、架け橋期のカリキュラムに関する研修は、教職員が具体的な指導方法を学ぶ上で、大きな効果を発揮した。

#### ○意識の共有

- ・研修を通して、幼保小の教育目標や指導方針に関する共通理解が深まった。

#### ○受講者の声や満足度

- ・研修受講者からは、「保小の教育内容や指導方法の違いを理解することができた」「具体的な指導方法を学ぶことができて良かった」「他の園・校の教職員と交流することができて有意義だった」などの声が上がった。

### 研修の課題

#### ○研修時間の確保

- ・教職員の多忙さから、研修時間の確保が難しいという課題があった。

#### ○研修内容の充実

- ・研修内容が、全ての教職員のニーズに合致しない場合があった。
- ・特に、経験年数や専門性の違いから、研修内容に対する理解度や関心度に差が生じる場合があった。

### 課題への対応策

#### ○研修時間の確保

- ・特に参加が難しいこども園の保育士に配慮して、研修会場をこども園とした。
- ・研修日程の調整や、代替要員の配置などを検討した。

#### ○研修内容の充実

- ・研修内容を、教職員のニーズに合わせて柔軟に調整した。
- ・先進地視察研修を行い、具体的な実践に触れて学ぶ機会を作った。

## 5-2. 教材等の作成

### <作成した教材等の概要>

#### リーフレット作成の背景と目的

##### ○課題

- ・幼児教育と小学校教育の接続に関する保護者や地域住民の理解が十分ではないという課題があった。
- ・幼保小の教育内容や指導方法の違いから、子供達の架け橋期における不安や戸惑いを軽減する必要があった。
- ・保小の連携を強化し、地域全体で子供達の成長を支える体制づくりを進める必要があった。

##### ○目的

- ・保小の接続に関する理解を深め、保護者や地域住民の不安を解消する。
- ・子供達の架け橋期における不安や戸惑いを軽減し、スムーズな接続を支援する。
- ・保小の連携を強化し、地域全体で子どもたちの成長を支える体制づくりを推進する。

#### リーフレット作成のプロセスと内容

##### ○プロセス

- ・カリキュラム開発会議が中心となり、保小中の教職員や保護者で内容を検討した。
- ・架け橋プログラム事業の概要がイメージでき、子供達の発達段階に応じたそれぞれの姿やアプローチ・スタートカリキュラムを理解でき、親しみやすいリーフレットを目指した。

##### ○リーフレットの内容

- ・表面は、子供達の活動の様子がわかる写真を中心にデザインした。
- ・中面は、0歳から15歳まで子供達の発達段階に応じた姿や保小中の取組、保護者・地域の役割などを分かりやすくまとめた内容と、アプローチ・スタートカリキュラムをまとめた内容を載せた。

#### 普及方法

##### ○園・学校での配布

- ・各園・学校を通して、保護者や地域住民に配布する。

##### ○町ホームページでの公開

- ・町ホームページにリーフレットを掲載し、広く情報提供を行う。

### <教材等の成果と課題>

リーフレットの配布と活用は令和7年度からのため、令和7年度末には成果と課題を明確にして、改善を図っていきたい。



## 6. 本事業に取り組んだことによる成果

### 6-1. 自治体における成果

#### <自治体における成果>

##### 事業に取り組む前の状況

- 幼児教育と小学校教育の連携は行われていたものの、より一層、子どもたちの発達段階に合わせた継続的な学びの支援が必要であるという認識があった。
- 幼児期から児童期への架け橋期における子どもたちの不安や戸惑いを軽減し、スムーズな接続を実現することが重要な課題であった。
- 幼児教育と小学校教育の現場で、教育内容や方法にギャップがあり、子どもたちが戸惑うケースも見られた。

##### 事業に取り組んだことによる成果

- 関係部局との連携強化
  - ・教育委員会（学校教育課）を中心に、福祉介護課など、関連する部局が連携して体制づくりを進め、情報共有や意見交換が活発に行われるようになった。
  - ・定期的な会議や研修会を通して、各部局の専門性を活かした協力体制が構築された。
- こども園と小学校の関係構築
  - ・こども園と小学校の連携を強化し、合同研修会や相互保育・授業参観などを通して、保育士と小学校教員の連携を深めることができた。
  - ・保小の教育目標や指導方針に関する共通理解が深まった。
- 保小接続に関する機運醸成
  - ・地域住民や関係団体との連携を強化し、地域全体で子どもたちの成長を支える体制づくりが進んだ。
  - ・広報活動等を通して保護者や地域住民の理解が深まった。
- 定量的なデータ
  - ・登校しぶり・不登校、いじめ等のトラブルの減少など、定量的なデータについては、具体的な数値は提示できない。しかし、本事業を通して、子どもたちの学校生活への適応がスムーズになり、安心して学校に通えるようになったという声が、保護者や教職員から多く寄せられている。

##### 成果が得られた要因

- 関係機関との連携強化
  - ・保小の教職員や関係機関との連携を密にし、情報共有や意見交換を積極的に行ったことが、成果につながったと考えられる。
- 地域資源の活用
  - ・西会津町の豊かな自然や文化、産業などの地域資源を教育活動に活用したことが、子供達の興味関心を引き出し、学びへの意欲を高めたと考えられる。
- 教職員の専門性向上
  - ・研修会等を通して、教職員の専門性向上を図ったことが、より質の高い教育活動を展開する上で、重要な役割を果たしたと考えられる。
- 保護者・地域住民の理解促進
  - ・広報活動等を通して、保護者や地域住民の理解を深めたことが、地域全体で子供達の成長を支える体制づくりにつながったと考えられる。

＜定量的・定性的な調査結果＞

育てほしい姿・目指す姿の達成度についての調査

○実施月 5月と2月

○対象 こども園年長児の担任と保護者、小学校1年生の担任と保護者

○内容

こども園年長組についてのアンケート項目

【年長児】	
幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿	
1	自分の心と体を大切にすることが出来る
2	自分ですべきことを自覚し行動出来る
3	相手の思いや気持ちを察して行動出来る
4	してよいことと悪いことを区別して行動出来る
5	周りの人たちに親しく接することができる
6	様々なものについて考え・気づき・使うことができる
7	自然や命の不思議・尊さに気づき大切にできる
8	数量や図形・標識や文字など必要感を持ち使える
9	言葉により身近な人と心を通わせることができる
10	感動したことなどイメージを膨らませ楽しく表現できる

小学校1年生についてのアンケート項目

【小学校1年生】	
意欲的に取り組む力を身に付けた 気づき、考え、実行できる児童	
1	心身の健康のために規則正しく生活できる
2	すべきことを粘り強く行うことができる
3	相手のことを思いやり仲良く生活できる
4	よいことを進んで行うことができる
5	明るく自分から進んであいさつできる
6	自ら課題を見つけ「こうしたらどうなるかな?」と考えられる
7	生きることを喜び生命を大切にできる
8	数量や図形・文字などに関心を持ち意欲的に学習できる
9	場面に応じた言葉や動作でコミュニケーションをとれる
10	様々な発想があることに気づき新しいイメージを作れる

○令和6年度の調査結果

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業  
「園児児童の様子についての質問紙」集計結果【年長児】

			A~Dの人数				ポイント (A×3 B×2 C×1 D×0) ★アンケート人数	6月時の点数 ↑ : ↑ - : ↓		
			A	B	C	D				
1	自分の心と体を大切にできる 気持ちで行動できる	保護者	6月	5	16	1	0	2.2	↑ 0.2	
			2月	8	13	0	0	2.4		
		担任	6月	21	1	0	0	3.0	↑ 0.0	
			2月	22	0	0	0	3.0		
2	自分ですべきことを自覚し行動できる	保護者	6月	5	12	4	0	2.0	↑ 0.2	
			2月	8	11	2	0	2.3		
		担任	6月	11	6	5	0	2.3	↑ 0.2	
			2月	13	7	2	0	2.5		
3	相手の思いや気持ちを察して行動できる	保護者	6月	7	12	3	0	2.2	↑ 0.2	
			2月	10	10	1	0	2.4		
		担任	6月	7	12	3	0	2.2	↑ 0.4	
			2月	13	9	0	0	2.6		
4	してよいことと悪いことを区別して行動できる	保護者	6月	6	13	3	0	2.1	↑ 0.1	
			2月	8	11	2	0	2.3		
		担任	6月	6	13	3	0	2.1	↑ 0.4	
			2月	15	4	3	0	2.5		
5	周りの人たちに親しく接することができる	保護者	6月	12	9	1	0	2.5	↑ 0.1	
			2月	13	7	1	0	2.6		
		担任	6月	7	12	3	0	2.2	↑ 0.5	
			2月	16	6	0	0	2.7		
6	様々なものについて考え・気づき・使うことができる	保護者	6月	3	16	2	0	2.0	↑ 0.2	
			2月	8	11	2	0	2.3		
		担任	6月	11	9	2	0	2.4	↑ 0.3	
			2月	16	6	0	0	2.7		
7	自然や命の不思議・尊さに気づき大切にできる	保護者	6月	4	13	6	1	1.8	↑ 0.4	
			2月	6	13	2	0	2.2		
		担任	6月	16	6	0	0	2.7	↑ 0.2	
			2月	21	1	0	0	3.0		
8	数量や図形・標識や文字など必要感を持ち使える	保護者	6月	5	9	6	1	1.9	↑ 0.5	
			2月	9	10	2	0	2.3		
		担任	6月	9	10	3	0	2.3	↑ 0.4	
			2月	15	7	0	0	2.7		
9	言葉により身近な人と心を通わせることができる	保護者	6月	6	13	2	0	2.2	↑ 0.3	
			2月	11	10	0	0	2.5		
		担任	6月	4	12	6	0	1.9	↑ 0.7	
			2月	13	9	0	0	2.6		
10	感動したことなどイメージを膨らませ楽しく表現できる	保護者	6月	8	12	2	0	2.3	↑ 0.4	
			2月	14	7	0	0	2.7		
		担任	6月	11	10	1	0	2.5	↑ 0.5	
			2月	20	2	0	0	2.9		

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業  
 「園児児童の様子についての質問紙」集計結果【小学校1年生】

		A~Dの人数				ポイント (A×3 B×2 C×1 D0) +アンケート人数	4月時の点数 + : ↑ - : ↓	■:とても当てはまる ■:やや当てはまる □:あまり当てはまらない □:まったく当てはまらない		
		A	B	C	D					
1	心身の健康のために規則正しく生活できる	保護者	6月	10	13	1	0	2.4	↑ 0.0	
			2月	12	8	1	1	2.4		
		担任	6月	0	16	10	0	1.6	↑ 0.7	
			2月	8	18	0	0	2.3		
2	ずるべきことを粘り強く行うことができる	保護者	6月	5	12	6	1	1.9	↑ 0.0	
			2月	5	11	5	1	1.9		
		担任	6月	0	5	21	0	1.2	↑ 0.9	
			2月	3	23	0	0	2.1		
3	相手のことを思いやり仲良く生活できる	保護者	6月	9	13	1	1	2.3	↑ 0.2	
			2月	11	10	1	0	2.5		
		担任	6月	0	12	14	0	1.5	↑ 1.0	
			2月	12	13	1	0	2.4		
4	よいことを進んで行うことができる	保護者	6月	11	10	3	0	2.3	↑ 0.2	
			2月	13	8	1	0	2.5		
		担任	6月	2	11	13	0	1.6	↑ 1.0	
			2月	15	11	0	0	2.6		
5	明るく自分から進んであいさつできる	保護者	6月	5	12	6	1	1.9	↑ 0.3	
			2月	7	12	3	0	2.2		
		担任	6月	0	10	16	0	1.4	↑ 1.0	
			2月	11	15	0	0	2.4		
6	自ら課題を見つけ「こゝしたらどうなるかな?」と考えられる	保護者	6月	2	13	7	2	1.6	↑ 0.3	
			2月	7	8	6	1	2.0		
		担任	6月	0	0	26	0	1.0	↑ 1.0	
			2月	0	25	1	0	2.0		
7	生きることを喜び生命を大切にできる	保護者	6月	8	12	3	1	2.1	↑ 0.0	
			2月	7	12	2	1	2.1		
		担任	6月	0	10	16	0	1.4	↑ 0.6	
			2月	0	26	0	0	2.0		
8	数量や図形・文字などに興味を持ち意欲的に学習できる	保護者	6月	8	13	2	1	2.2	↑ 0.2	
			2月	10	11	1	0	2.4		
		担任	6月	0	7	19	0	1.3	↑ 0.8	
			2月	2	24	0	0	2.1		
9	場面に応じた言葉や動作でコミュニケーションをとれる	保護者	6月	6	14	3	1	2.0	↑ 0.1	
			2月	6	14	2	0	2.2		
		担任	6月	0	8	17	0	1.3	↑ 0.9	
			2月	8	17	1	0	2.3		
10	様々な発想があることに気づき新しいイメージを作れる	保護者	6月	8	10	6	0	2.1	↑ 0.3	
			2月	12	7	3	0	2.4		
		担任	6月	0	0	25	1	1.0	↑ 1.2	
			2月	3	23	0	0	2.1		

## 6-2. 園・校における成果

### <先生方の指導と子供の姿の変容>

#### 事業に取り組む前の状況

- こども園と小学校それぞれ教育目標や指導方法が異なり、子供達の学びの連続性が十分に確保されていなかった。
- 保育士と小学校教員の連携が不足しており、相互理解が十分ではなかった。
- 子供達の主体的な学びや地域との連携を重視した教育活動が、十分に展開されていなかった。

#### 事業に取り組んだことによる園・学校における成果

##### ○先生方の指導の変容

- ・保小の教職員が合同で研修や会議を重ねることで、相互理解が深まり、共通の教育目標や指導方法を共有できるようになった。
- ・子供達の発達段階や特性を踏まえ、学びの連続性を重視した指導ができるようになった。
- ・地域資源を活用した教育活動を積極的に取り入れるようになり、子供達の主体的な学びを促す指導ができるようになった。
- ・ミネラル野菜栽培などの地域連携活動を通して、食育指導にもつなげるなど、指導の幅が広がった。

##### ○子どもたちの姿の変容

- ・架け橋期における不安や戸惑いが軽減しスムーズに小学校生活に適應できるようになった。
- ・主体的に学び、探求する力が生まれ、学びへの意欲が高まった。
- ・地域への愛着や誇りが生まれ、地域社会とのつながりを意識できるようになった。
- ・異年齢との交流を通して、思いやりや協調性を身につけることができるようになった。
- ・ミネラル野菜栽培を通して、食への関心が高まり、食の大切さを理解できるようになった。

#### 成果が得られた要因

##### ○幼保小の連携強化

- ・合同研修や相互保育・授業参観を通して、保小の教職員が密に連携し、情報共有や意見交換を積極的に行ったことが、相互理解を深め、指導の質の向上につながったと考えられる。

##### ○地域資源の活用

- ・西会津町の豊かな自然や文化、産業などの地域資源を教育活動に活用したことが、子供達の興味関心を引き出し、主体的な学びを促したと考えられる。

##### ○教職員の専門性向上

- ・研修会等を通して、教職員の専門性向上を図ったことが、より質の高い教育活動を展開する上で、重要な役割を果たしたと考えられる。

##### ○保護者・地域住民の理解促進

- ・広報活動等を通して、保護者や地域住民の理解を深めたことが、地域全体で子どもたちの成長を支える体制づくりにつながったと考えられる。

#### 具体的な事例

- ミネラル野菜栽培を通して、こども園と小学校の子どもたちが交流し、協力して野菜を育て、収穫する活動を行ったことで、子どもたちは異年齢との交流を通して、思いやりや協調性を身につけることができた。
- こども園の年長児が小学校の授業に参加する機会を設けたり、様々な交流活動を実施したりしたことで、子供達は小学校生活への不安を軽減し、スムーズに移行することができた。

## <保護者の反応>

### 事業に取り組む前の状況

- 小学校入学に対する不安や、保小の教育内容の違いに対する疑問など、保護者の方々から様々な不安の声が上がっていた。
- 保小の連携活動に関する情報が不足しており、保護者の方々の理解が十分ではなかった。
- 地域との連携に関する情報も少なく、地域社会とのつながりを感じにくい状況だった。

### 事業に取り組んだことによる保護者の反応

- 不安の軽減と安心感の向上
  - ・保小の連携活動に関する情報提供やカリキュラムについての説明を通して、小学校入学に対する不安が軽減し、安心感が高まったという声が多く寄せられた。
- 理解度の向上
  - ・保小の教育内容や指導方法の違いに関する情報提供を通して、保護者の方々の理解度が向上した。
  - ・特に、架け橋期のカリキュラムに関する説明を聞いた保護者からは、「保小の学びのつながりについて理解できた」などの声があった。
- 満足度の向上
  - ・保小の連携活動や地域との連携活動に対する満足度が高まった。
- 保護者の声
  - ・「小学校入学前に、小学校の先生と交流する機会があつて良かった」
  - ・「保小の連携活動を通して、子どもの成長を感じることができて嬉しい」
  - ・「地域の方々と交流する機会が増え、とても良いことだと思う」

### 成果が得られた要因

- 丁寧な情報提供
  - ・保小の連携活動に関する情報を、説明会や架け橋だよりを通して丁寧に提供したことが、保護者の不安軽減や理解度向上につながったと考えられる。
- 双方向のコミュニケーション
  - ・アンケート調査等を通して、保護者の見方・感じ方を把握し、事業内容に反映させたことが、満足度向上につながったと考えられる。
- 地域との連携強化
  - ・地域資源を活用した活動や、地域住民との交流機会を設けたことが、地域社会とのつながりを感じさせ、安心感や満足度を高めたと考えられる。

## 7. 今後の課題と展望

### 今後の課題と取組

#### ○課題

- ・保育士や教員の多忙化が進む中で、保小の連携を継続的に行うための時間や体制の確保が必要である。
- ・保護者や地域住民の中には、保小の接続に関する理解が十分でない方もいるため、情報発信の方法や内容を工夫する必要がある。
- ・保護者や地域住民の関心を高め、積極的に活動に参加してもらうための工夫が必要である。

#### ○課題解決に向けた取組

- ・保育士や教員の負担軽減や連携時間確保のための、年間計画への位置づけや業務改善、ICT活用などを推進する。
- ・保小の連携を継続的に行うための、アドバイザー等専門人材の配置や研修体制の充実などを確実に行う。
- ・リーフレットを積極的に活用するとともに、情報発信の方法や内容を、対象者やニーズに合わせて工夫する。

### 架け橋期のカリキュラムの継続・普及

#### ○継続

- ・架け橋期のカリキュラム開発会議をもとにした保小中連携推進協議会（仮称）を設置し、定期的開催し、カリキュラムの実施状況や課題について情報共有や意見交換を行う。
- ・保育士と教員の合同研修会を開催し、カリキュラムに関する知識や技能の向上を図る。
- ・カリキュラムの実施状況や子どもたちの成長を定期的に評価し、必要に応じて内容の見直しや改善を行う。

#### ○普及

- ・架け橋期のカリキュラムや活動事例を、リーフレットや町ホームページ、広報誌、ケーブルテレビなどを通して、保護者や地域住民に広く周知する。
- ・他の自治体や教育機関へもリーフレットを配布するなどして、架け橋期のカリキュラムに関する知見やノウハウを共有し、更なる普及を目指す。

#### ○得られた知見や成果等の活用

- ・本事業を通して得られた知見や成果等を、西会津町の幼児教育・小学校教育の質の向上に役立てる。
- ・架け橋期のカリキュラム開発の経験を活かし、他の教育分野におけるカリキュラム開発や改善に貢献する。
- ・本事業の成果を、他の自治体や教育機関に共有し、幼保小の接続に関する取組の普及に貢献する。

## 8. まとめ

### 幼保小の接続のために必要なこと

- 幼保小の教職員間の連携強化
  - ・合同研修や相互保育・授業参観などを通して、相互理解を深め、共通の教育目標や指導方法を共有することが重要である。
  - ・定期的な情報交換や意見交換を通して、子供達の成長を継続的に見守る体制を構築することが重要である。
- 地域との連携強化
  - ・地域資源を活用した教育活動を積極的に取り入れ、子供達の主体的な学びや地域への愛着を育むことが重要である。
  - ・地域住民や関係団体との連携を強化し、地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築することが重要である。
- 保護者の理解と協力
  - ・幼保小の接続に関する情報提供や説明会を通して、保護者の不安を軽減し、理解を深めることが重要である。
  - ・保護者が家庭でできる学習支援や、子どもたちの成長を支えるための情報提供を行うことが重要である。
- 継続的なカリキュラムの見直しと改善
  - ・幼保小の連携を推進する会議を定期的で開催し、カリキュラムの実施状況や課題について情報共有や意見交換を行う。
  - ・幼保小の教職員が合同で研修や勉強会を開催し、カリキュラムに関する知識や技能の向上を図る。
  - ・カリキュラムの実施状況や子どもたちの成長を定期的に評価し、必要に応じて内容の見直しや改善を行う。

### 自治体の役割

- 地域の特性や実情に合わせた幼保小の接続に関する計画を策定し、実施する。
- 幼保小の教職員や関係機関との連携を強化し、地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築する。
- 保護者や地域住民への情報提供や啓発活動を積極的に行う。
- 幼保小の接続に関する研修会や勉強会を開催し、教職員の専門性向上を図る。
- 地域資源を活用した教育活動を推進し、地域との連携を強化する。
- 幼保小の接続に関する先進的な取組を積極的に導入し、地域の教育の質の向上を図る。

### 本事業を通して得られた知見や成果

- 幼保小の連携強化や地域との連携強化、保護者の理解促進など、多岐にわたる取組を総合的に行うことが重要である。
- 地域資源を活用した教育活動は、子供達の主体的な学びや地域への愛着を育む上で、大きな効果を発揮する。
- 保護者への丁寧な情報提供や双方向のコミュニケーションは、保護者の不安軽減や理解度向上、満足度向上につながる。
- 架け橋期のカリキュラム開発を通して、幼保小の教育内容や指導方法の違いを理解し、学びの連続性を重視した教育活動を展開することが重要である。